

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社 うりんこ
公演団体名	劇団うりんこ

内容
<p>【実施形態】</p> <p>①ワークショップの参加児童は、4年生以上、1クラス単位(40名程度)を基本とします。</p> <p>②指導は、ワークショップ指導経験者が2名以上で行います。</p> <p>③共演場面の練習に限らず、“演劇的表現”を楽しむためのワークショップや、子どもたち相互のコミュニケーション力向上をはかる活動を実施します。</p> <p>活動内容は、参加児童の学年や人数などによって調整します。</p> <p>【ワークショップ内容】</p> <p>(導入)活動の目的と概要を伝えます。アイスブレイクのための活動(ジャンケンを使ったゲームなど)を行います。</p> <p>(展開①)表現活動を行うための準備段階として、他者とのコミュニケーションを楽しむ活動を行います。想像を楽しむ活動と、小集団での創作活動(身体表現)、音楽と共に動きを楽しむ活動を行います。</p> <p>(展開②)共演場面の内容を伝えます。遊びを発案する場面のセリフや、遊び場面での身体表現などを児童と共に考え、創作します。</p> <p>(まとめ)共演児童を決定します。共演児童は、実際の舞台と同サイズにテーピングした場所を使い、参加共演場面を演じます。</p> <p>【共演の内容】</p> <p>共演の児童生徒は、20人程度(4年生以上)を予定しています。</p> <p>登場人物のキツネが、オオカミの助けを得てへびと友達になり、木の精を囲み登場人物たちが歌い遊ぶ場面での共演です。俳優と一緒に「だるまさんがころんだ」をアレンジした遊び「だるまさんが〇〇した」で遊びます。〇〇の部分では即興的に身体表現を行います。台詞も児童のアイデアを活かしてつくり、上演校独自の共演場面を創作します。</p>

タイムスケジュール(標準)
0～15分＝アイスブレイクの活動(導入)
15分～45分＝コミュニケーションを楽しむ活動、想像力を育む活動、小集団で創作活動(展開①)
45分～55分＝休憩
55分～85分＝共演場面の説明、共演場面の創作(展開②)
85分～100分＝共演児童の決定、練習(まとめ)

派遣者数
主講師 1 名、補助者 1 名 計 2 名

学校における事前指導
共演場面の内容を漫画やイラストで書いた手紙を送ります。手紙を実施学級に掲示し、児童生徒に周知を図ってください。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社 うりんこ
公演団体名	劇団うりんこ

演目
演目:「ともだちやーあいつもともだちー」 原作:内田麟太郎(「ともだちや」「あいつもともだち」「ともだちごっこ」偕成社) 脚本・演出:佃 典彦(B級遊撃隊) 美術:青木拓也 衣装:木場絵里香 音楽:内田アダチ 音響:椎名 KANS 振付:下出祐子 公演時間(65分)

派遣者数
出演者:3名 スタッフ:1名 合計:4名

タイムスケジュール(標準)					
到着	仕込み/リハーサル	本公演	内休憩	撤去/積込	退出
9:30	9:30~11:30 /11:30~12:15	13:30~14:35	無	15:00~16:00	16:00

実施校への協力依頼人員
・公演実施前 上演演目のポスターを校内などに掲示し、児童生徒への周知にご協力ください。 また、本事業のパンフレットの配布をお願いします。
・公演当日 客席にパイプ椅子が必要な場合は、椅子の設置準備にご協力ください。 公演後の椅子撤去作業をお願いします。 保護者などがご来場の場合は、保護者受付・携帯電話のマナーに関するインフォメーションをお願いします。

演目解説

【あらすじ】

一人ぼっちで寂しがりなキツネは、ある日「ともだちや」を始めました。一時間 100 円で「ともたち」になってあげる商売です。のぼりを立て大声で「え～、ともだちやで～す。寂しい人はいませんか～？ 友達、一時間 100 円で～す」と呼びかけます。でも、友達って買えるのかな？ 本当の友達って、どんなんだろう？ 友達と心がすれ違っちゃったら、どうしたらいいんだろう？ ちょっとの勇気で、友達が増えるって幸せだね。「ともだち」との様々な心のやり取りを描いた演劇です。

【みどころ】

長年、子どもたちに大人気の絵本「おれたち、ともだち」シリーズの劇化です。低学年も高学年にも共感できる「友達との関わり」を描いており、興味関心を持って楽しく鑑賞できる演劇です。3 人の俳優が 9 役を演じ、友達をめぐる様々な感情や関係の変化を描きます。また、舞台美術の変化や音楽的効果で季節の移り変わりを表現し、観客の想像力を刺激します。キツネやオオカミ、クマ、テン、ヘビなどの動物は、絵本に描かれている姿を忠実に表現しており、見た目にも見応えある演劇です。

「ともだちや ーあいつもともだちー」は、人気絵本シリーズ「おれたち、ともだち」(内田麟太郎作)を劇化した児童劇です。子どもが共感しやすい内容であり、初めて演劇を鑑賞する児童にも楽しく鑑賞でき、また他者とかかわりあうことの喜びを強く感じ、共感しあえる作品です。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

共演の児童生徒は、20 人程度(4 年生以上)を予定しています。

登場人物のキツネが、オオカミの助けを得てヘビと友達になり、木の精を囲み登場人物たちが歌い遊ぶ場面での共演です。俳優と一緒に「だるまさんがころんだ」をアレンジした遊び「だるまさんが〇〇した」で遊びます。〇〇の部分では即興的に身体表現を行います。台詞も児童のアイデアを活かしてつくり、上演校独自の共演場面を創作します。

児童生徒とのふれあい

上演後、バックステージツアーを実施します。限られた運搬量の演目でありながら、見栄え良い舞台装置にするための工夫や、衣裳の早替えの工夫や、俳優が演技をしながら音響の操作を行うための工夫などを見学してもらいます。

舞台裏見学を通して演劇への興味を多方向から持ってもらう事で、舞台芸術に対する興味関心を喚起し、将来の芸術家育成や鑑賞能力向上に寄与したいと考えています。